

【公開文書】

調査「インターネット調査を用いた住民のヘルスリテラシーに関する研究」について

筑波大学地域医療教育学では、過去に行われた既存のデータを用いて標題の調査研究を実施します。

本研究に関する問い合わせにつきましては、文末に記載されております連絡先へご連絡ください。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究対象

本調査は、医療関係者を除外した20歳～79歳の一般市民を対象とし、2012年2月2日から7日間にわたり、調査会社による公募モニター型インターネット調査として実施され、348名の方にご協力頂きました。なお、データは調査会社から匿名化された状態で受け取っており、個人情報に含まれておりません。

② 研究の意義・目的・方法

近年、医師不足や医師の地域偏在などを代表とする医療崩壊が社会問題となっており、国民のライフラインである医療サービスをいかに守ってゆくかが喫緊の課題となっています。

この問題に対する解決の糸口の1つに、国民自身も健康問題やセルフケアに対する正しい知識を持ち、チーム医療を支える大切な構成員として積極的に関わろうとする意識や文化づくりといったヘルスリテラシーを高めていくことが重要視されるようになっていきます。

ヘルスリテラシーとは、日常の健康に関する適切な意思決定を行うのに必要な健康情報やサービスを手に入れ、整理し、理解し、行動に移すことができる能力をいいます。

このヘルスリテラシーの評価には、一般住民が実際は、どのように健康情報を収集し、そして、どのように情報の価値判断をしているのか、さらに、健康に関する知識についてどの程度正しく認識しているのかを評価・分析することが有用とされておりますが、この分野の研究成果は、未だ十分に蓄積されていないのが現状です。

そこで、本研究班では、市のヘルスプロモーション事業の一環として実施された、インターネット調査の結果を用いて、我が国における一般住民の病気に対する認識に関する現状分析や病気に対する認識に関連する要因を検討するために、上記調査結果をもとに、統計学的分析を行います。

③ 研究機関名・研究者名

医学医療系 臨床医学域 地域医療教育学：研究代表者 阪本直人

④ 保有する個人情報に関する利用目的

調査データを用い、我が国における一般住民の病気に対する認識に関する現状分析や病気に対する認識に関連する要因を検討するために利用します。

また、本研究以外の目的で使用することはありません。本調査にご協力くださった皆さまが不利益を被ることもございません。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、個人情報を有しておりませんので、個人情報は流出することはありません。

⑤ 保有する個人情報の開示手続

分析対象のデータは調査会社から匿名化された状態で受け取っておりますので、個人情報の開示はございません。

⑥ 保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

筑波大学

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1

所属・担当者名：医学医療系 臨床医学域 地域医療教育学 講師 阪本直人

電話：（平日 8 時～17 時）029-853-3189（直通）・FAX：029-853-3189

September 08, 2017